Environmental Protection

特集

小さな行動で変わる未来

今回の特集では、環境保全に取り組む事業者の皆さんや「プラスチックごみ」の解決に向けた授業を実施している芝山中学校の活動などを紹介します。

全社一丸となって取り組む地球温暖化対策

芝山工業団地内のENEOSテクノマテリアル株式会社では、社内で扱うプラスチックのリサイクルなど、さまざまな環境への取り組みを実施しています。

「年間のエネルギー使用量が多い工場なので、工場内の電気を全てLEDにしたり、ボイラーの燃料を重油からガスに変えるなど、毎年1%以上のエネルギー消費削減を目指している」という従業員の皆さん。

中期環境目標（令和2～4年度）として「低炭素社会への貢献」「循環型社会への貢献」「環境保全への貢献」を重点テーマに掲げ、さまざまな活動を実施するなど、全社一丸となって積極的な地球温暖化対策に取り組んでいます。

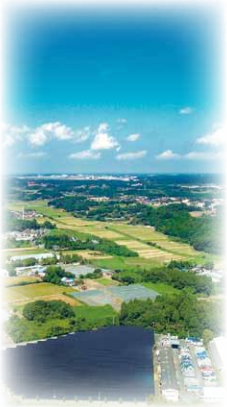
出荷できない野菜の販売で食品ロスを減らす

町内で農業を営む小川國展さんは、廃棄野菜を減らすため、昨年11月から自宅前に無人販売所を設置しています。販売されているのは、形や大きさの関係で出荷できない野菜。「安くて新鮮だと喜んでもらえたときはうれしい」と話す小川さんの販売所は、地球にも地域の方々の家計にもやさしい取り組みとなっています。

再生可能エネルギーを利用し環境にやさしい発電を

再生可能エネルギーを活用した環境保全活動に取り組んでいるのは、空の湯などを運営する三栄メンテナンス株式会社。

末永く安心して施設を運用できるよう、地中熱を利用した基礎空調を行う「ジオパワーシステム」の導入や総合ビルメンテナンスで培ったノウハウとネットワークを生かした「太陽光発電事業」などを展開しています。



環境問題の解決に向けて私たちができること

地球上で起きているさまざまな環境問題の解決には、行政や企業の取り組みに加え、私たち個人の協力が必要です。

家庭や職場などで簡単に実践できる取り組みを3点紹介しますので、できることから始めてみましょう。

①マイバッグを利用する

マイバッグを使ってレジ袋の使用量を減らすことで、プラスチックごみが減少し、地球温暖化の解決につながります。

②食品ロスを減らす

食品ロスを減らすため、食べ切れる量だけを買ったり、買ったものはきちんと使い切るよう意識しましょう。

③ごみをしっかりと分別する

ごみの分別を行い、リサイクルできるものを増やすことで、限られた資源の有効活用と焼却や埋め立てが必要なごみの量を減らせます。

ごみ処理について学ぶ芝山小学校4年生

10月12日、山武郡市環境衛生組合で校外学習が実施され、ごみ処理方法の説明などが行われました。

分別や解体方法の説明では「こんな風に処理されているなんて知らなかった」と驚いた表情を見せた子どもたち。

内容を熱心にメモしたり、積極的に質問するなど、ごみ処理の大変さや作業時の工夫について学習を深めました。

▲焼却灰を観察

芝山中学校海洋教育授業

生徒の主体性を大切にした学習を

芝山中学校　森　孝行 先生
内田 貴明 先生

この学年では、これからの時代を生きていくために必要な学習として、1年生から授業の中でSDGsの学習をしています。昨年は「自然との共存」をテーマに校外学習を実施し、自然を壊さずに暮らす様子などを見学しました。

２年生では、環境問題へのアンケートを実施したところ、プラスチックごみの問題に関心が高かった一方で、海への影響や生息する生物への影響についての関心は低いという結果になりました。

町内に海がないことが影響しているからだと考えられますが、海がないからといって海のプラスチックごみ問題を軽視できません。そこで、SDGsの目標14である「海の豊かさを守る」ことを目標に、海洋汚染問題を主体的に解決するための授業を行いました。

４月から始まった授業では、筑波大学の先生によるリモート授業や校外学習を実施しました。校外学習では、実際に海岸に行き、生徒自らが考えた方法を用いてプラスチックごみの回収を行いました。生徒たちからは、大小さまざまなプラスチックごみが多くあることに驚いた様子が見られました。

また、仲間と協働し試行錯誤しながら答えのない問題を主体的に解決しようとする生徒たちの姿から、学習の重要性を実感できました。

(Photo) 千葉ポートパークにて海のプラスチックごみを回収する様子

小さな心掛けの重要さを実感

２年Ａ組
瀧澤 奈央 さん

プラスチックごみに関する授業をきっかけに「海洋ごみを減らす」というテーマで自由研究を行いました。海の砂からプラスチックごみを採取したり、校外学習でプラスチックだらけの砂を見たりしたときに、強い衝撃と「絶対にこのままではいけない」という思いを持ちました。これから、海洋ごみを減らすためには、一人一人の小さな心掛けが重要になると思います。エコバックやマイボトル、紙ストローなど小さなことから始めていきたいです。

学んだ知識を多くの人に共有したい

授業を通してプラスチックごみ問題の真実や、海に流出したプラスチックごみがその後どうなるかなど、たくさんのことを学びました。この授業を生かし、日常的に使うプラスチック用品を減らしていきたいと思います。まずは小さな取り組みから始めることで始めやすく、意識改善もしやすいからです。そして、多くの人に自分の考えたことや新しく知ったことを共有し、一緒にプラスチックゴミを減らす取り組みをしていきたいです。

２年Ｂ組
小山内 凌 さん

先進施設の視察を経て

芝山町長　麻生 孝之

10月6日、山武郡市環境衛生組合の副管理者として、長野県伊那市を訪問しました。現地では、ごみ処理施設を視察し、施設の事業化や建設に至るまでの経緯を学びました。

現在、環境衛生組合では、施設が老朽化したため、令和10年度供用開始に向けた新しいごみ処理施設の設置計画についてさまざまな協議を行っております。

今回の視察を参考に、ごみの焼却方法や運営方法について今後さらに検討し、環境に十分配慮した施設を目指してまいります。

▲視察の様子